

当別町地域公共交通活性化協議会

平成20年2月 1日設置
平成20年3月26日連携計画策定
平成21年3月 6日、平成22年3月10日連携計画変更



概要

当別町は、地形が南北に長いほか、東西に市街地が二極化しており、また、札幌市や江別市といった都市に隣接していることなどによって、自動車への依存が非常に高い地域であることから、コミュニティバス(当別ふれあいバス)の運行、設備の充実、公共交通利用促進策の実施等により、町内交通モードを自動車から公共交通への転換を図る。

「当別ふれあいバス」の運行(20年度～)

- 当別町、北海道医療大学、スウェーデンハウス株式会社の3者による費用負担により、コミュニティバス「当別ふれあいバス」の運行を継続するほか、利用者少数路線の経費削減・サービス充実化を目的とした、デマンドシステム導入の実証運行を21年度より実施。
- 公共交通空白地帯解消に向け、デマンドシステムによる実証運行を22年度より実施。
- JRあいの里公園駅からJR最終便に接続した「深夜バス」の運行を実施。
- バスを利用して図書や農産物・郵便物を輸送する「物流システム」導入の実証実験を実施。

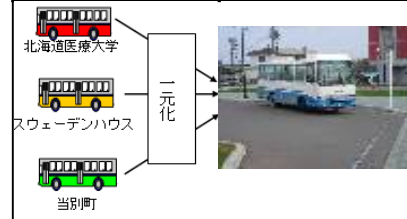
設備の充実(20年度～)

- バス停留所のデザインの改善や待合所の設置。
- ノンステップバスの導入。
- JR石狩当別駅及び石狩太美駅等において、バス・JRの運行状況等を表示する情報提供システムを整備。
- バス車内に音声映像案内システムを導入。

公共交通の利用促進策の実施(20年度～)

- 住民等に対し、利用促進パンフレットやニュースレターの配布、講演会やセミナーの実施、定期的なアンケートの実施等。
- 小中学生に対し、「かしこいクルマの使い方」や「てんぷら油でバスが走る」などの交通教育を実施。
- 使用済みてんぷら油の回収システムを導入し、BDFを製造して、バスの燃料とする。
- ラッピングバスの運行。
- 潜在利用者の発掘や既存利用者の利便性向上を目的に、HPを開設。
- 公共交通や地球温暖化をテーマとしたバス祭りの開催。

複数のバスを統合した当別版コミュニティバス(「当別ふれあいバス」)の運行・デマンドシステムの導入



公共交通の利用促進策の実施(ホームページの開設)

図書や農産物・郵便物を輸送する「物流システム」の導入

設備の充実(待合所の設置)



設備の充実(音声映像案内システムの導入)



JR最終便に接続した深夜バスの運行

